平成25年度大学図書館職員短期研修
東京会場（平成25年11月8日）

海外研修経験から見えた大学図書館(2)
～韓国･台湾から考える今後の取り組み～

立正大学情報メディアセンター
大崎学術情報サービス課
太田　優未

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

本日の流れ

- ◆ 研修概要
- ◆ 訪問機関概要
  - ◇韓国の教育情報推進化政策
    - ・韓国教育学術情報院（KERIS）
    - ・国立デジタル図書館
    - ・国立ソウル大学中央図書館、同医学図書館
    - ・私立延世大学図書館
    - ・私立梨花女子大学図書館
  - ◇台湾の電子化事情
    - ・國立高雄第一科技大學図書館
- ◆ 特徴（まとめ）

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

海外研修概要

RISSHO University

◆研修テーマ：
東アジアにおける電子化推進図書館を見る

東アジアにおいて、特に韓国と台湾では、大学図書館等における電子化の推進が著しい。そのような図書館で実際に電子化の状況を視察し、合わせて施設や設備を見学し現地職員と意見交換することで、電子化に関する見聞を深めるとともに、先進的な図書館の組織・運営方法の事例に触れ、最新の取り組みなどの情報を得る。また、図書館職員相互の国際的な人的交流を実現する。

（「2012 年度海外集合研修報告」より）

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

海外研修概要

RISSHO University

◆研修メンバー：

関西学院大学、聖マリアンナ医科大学、
同志社大学、明治大学、立正大学（5大学5名）

◆研修メンバー内で関心を持ったテーマ

- 電子化のメリット・デメリット
- 施設設備
- 利用者支援サービス
- 人材育成

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

海外研修概要

◆研修期間：2012年12月3日(月) ～ 9日(日)

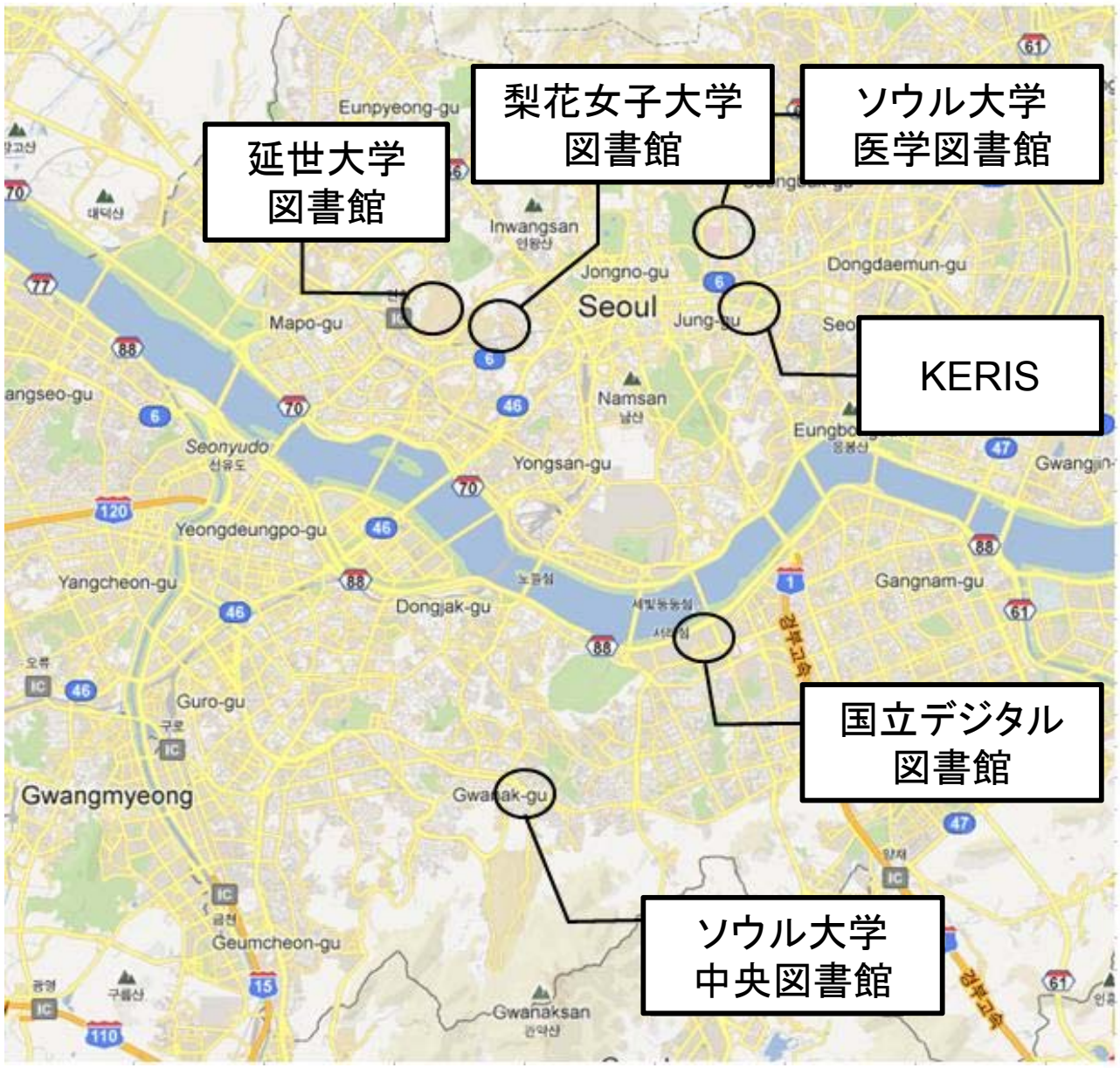
◆訪問機関：韓国5機関、台湾1機関

・韓国教育学術情報院（KERIS）
・国立デジタル図書館
・国立ソウル大学中央図書館、同医学図書館
・私立延世大学図書館
・私立梨花女子大学図書館
・國立高雄第一科技大學図書館

※國立台湾大學図書館は訪問することができなかった。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

韓国



Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

韓国の教育情報推進化政策

RISSHO University

【国際競争力の強化⇒国民育成⇒教育情報化】

・政策目標

従来は「標準化された知識を画一的に提供」であった。

個人のレベルや特性に合わせる「自己主導型学習」へ。

・情報の活用

学習空間・時間・利便性の拡張。

情報は国民全体に教育を普及させるための土台の役割。

・情報の捉え方

情報は「ツール」から「本質的要素」へ。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

韓国教育学術情報院（KERIS）

RISSHO University

【韓国教育学術情報院

（KERIS：Korea Education and Research Information Service）】

分散されている教育情報と学術研究情報と流通を一元的に統合することを大きな一つの目的とし、教育情報化政策の中心的役割を担っている機関。

行政改革の一環として、1999年に新設された。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

韓国教育学術情報院（KERIS）

【学術研究情報サービス（RISS）】

大学が生産・保有・購読する学術資料を共同で利用するためのシステムであり、利用者向けのポータルサイト。

【大学図書館総合リストサービス（Union Catalog）】

共同目録分担方式で、目録及び所在情報を蓄積している。

蓄積した目録・所在情報はRISSに利用している。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

韓国教育学術情報院（KERIS）

【デジタル学術情報流通体系（dCollection）】

各機関における知的生産物を蓄積し、RISSから学術情報の原文をオンライン提供している。

【eラーニングコンテンツ（KOCW）】

大学で公開された講義及び講義資料を全国民が共同活用できる。130の大学で開講されている約4,000科目が受講可能。2010年よりiPhoneやiPadなどからも利用可能に。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

国立デジタル図書館

【国立デジタル図書館】 Dibrary（Digital+Library）

「ディブラリーポータル」という仮想空間と
「情報広場」という物理的空間を統合的に運営し、
デジタルとアナログを融合したサービスを提供している。

開館時間	毎週火曜日～日曜日 9:00～18:00
蔵書数 （2013年1月）	韓国内出版物 612万冊 国外出版物 111万冊 非図書資料 142万件 古典 27万点 デジタル資料 205万点

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

【ディブラリーポータル】

利用者が誰でも、いつでも、どこででも、欲しい資料を容易に、便利に、早く、正確に探すことができるようにすることを目指した仮想空間。

・（司書の業務として）所蔵資料のメタデータの作成
・貴重図書、稀覯本から適宜対象資料を選定し電子化
　⇒著作権消滅資料の公開
・オンラインレファレンスサービスの実施

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

国立デジタル図書館

RISSHO University

【館内予約用PCとキオスク端末】

入館ゲート前に設置してあり、あらゆる施設予約や座席予約などを行うことができる。

至るところにデジタルサイネージも設置されている。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

国立デジタル図書館

RISSHO University

【デジタル資料閲覧スペース】

入館ゲート前には開かれた広場として、デジタル資料の閲覧できるスペースが設置されている。
館内には複数人でマルチメディアコンテンツを視聴できるMultiplex（複合上映館）もある。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

国立デジタル図書館

【Digital Newspaperとインテリボード】

韓国内の新聞や雑誌を閲覧することができる大型タッチスクリーンキオスク。見学時にも多くの利用者が閲覧していた。隣接する国立中央図書館所蔵の貴重書や古書をデジタルブック形式で閲覧できるスクリーンも設置している。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

【映像・音響・UCC（User Created Contents）スタジオ】

映像・音響を専門家レベルの機器類を使って撮影・録音・編集し、コンテンツ制作ができるスタジオを完備している。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

国立ソウル大学中央図書館、同医学図書館

RISSHO University

1946年に韓国で最初に設立された国立大学

学部／大学院	16学部／一般大学院84専攻、専門大学院7系列
学生数	学部／大学院合わせて 約28,000人
教職員数	教員 約5,600人、一般職員 約1,000人

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

国立ソウル大学中央図書館、同医学図書館

RISSHO University

	中央図書館	医学図書館
座席数	約3,500席 （500席が24時間利用可能）	約736席 （500席が24時間利用可能）
開館時間	平日 9:00～21:00 土曜日 9:00～17:00 日曜日 13:00～17:00 学習室 6:00～23:00 （1室は24時間開館）	平日 9:00～20:00 土曜日 9:00～13:00 日曜日 6:30～24:00
蔵書数	図書 4,445,092冊 雑誌・新聞 95,953タイトル 電子ジャーナル 33,000タイトル 非図書資料 215,316点	図書 212,904冊（国内48,202冊、外国163,858冊、電子ブック844点） 学術雑誌 5,629誌（冊子657誌、電子ジャーナル4,972誌）

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

国立ソウル大学中央図書館、同医学図書館

RISSHO University

【座席予約キオスク端末と個人キャレル】

早朝から深夜まで開室している学習室の座席は、すべて入口のキオスク端末で予約してから利用する。（中央）

個人キャレルが多く設置してあり、学年別にスペースが分けられている。予約すれば年間通じて利用できる。（医学）

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

国立ソウル大学中央図書館、同医学図書館

【無人返却機と学生証・モバイルリーダー】

無人返却機では返却と同時に即時システム処理が行われる。入退館や資料の貸出には、学生証、モバイルパス、バーコードのいずれかで行うことができるようになっている。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

国立ソウル大学中央図書館

【寄付者銘板】

今回訪問した各大学施設の大半は、企業等からの寄付により設置されたものであり、入口には寄付者銘板があった。名誉を重んじる韓国社会の風土と、著名大学への寄付行為における社会的影響も韓国ならではといえる。
特に、サムソン電子グループの大学への施設・設備の寄付が多く見られた。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

国立ソウル大学中央図書館

【主題別専門司書（リエゾンライブラリアン）】

司書2名あたり2～3学部を受け持つ、学科担当専任司書を配置している。修士・博士以上の講義を対象に支援したり、Dotori onと呼ばれるライブチャット機能を利用したレファレンスサービスを行っている。

館内では、【研究支援室（Library Liaison &Research Support）】に駐在し、支援を行っている。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

私立延世大学図書館

RISSHO University

1885年に韓国で最初に設立された私立大学

【延世・三星学術情報センター】

- Ubiquitous Library
  （最先端IT基盤のユビキタス図書館）
- Cultural Library
  （豊かなコンテンツを楽しむことが
  できる複合文化空間）
- Convenient Library
  （快適で多様な用途別オーダー
  メード研究学習空間）

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

私立延世大学図書館

RISSHO University

学部／大学院	22学部／18専攻
学生数	学部／大学院合わせて約39,000人
教職員数	教員約4,800人、職員約7,000人
座席数	約5,500席
開館時間	平日 9:00～22:00 土曜日 9:00～17:00 学習室 6:00～23:00
蔵書数	図書 約278万冊、雑誌 約16,500タイトル 電子ジャーナル 約58,600タイトル 学術的なデータベース 314点 貴重書を含む古書等 100,000点以上

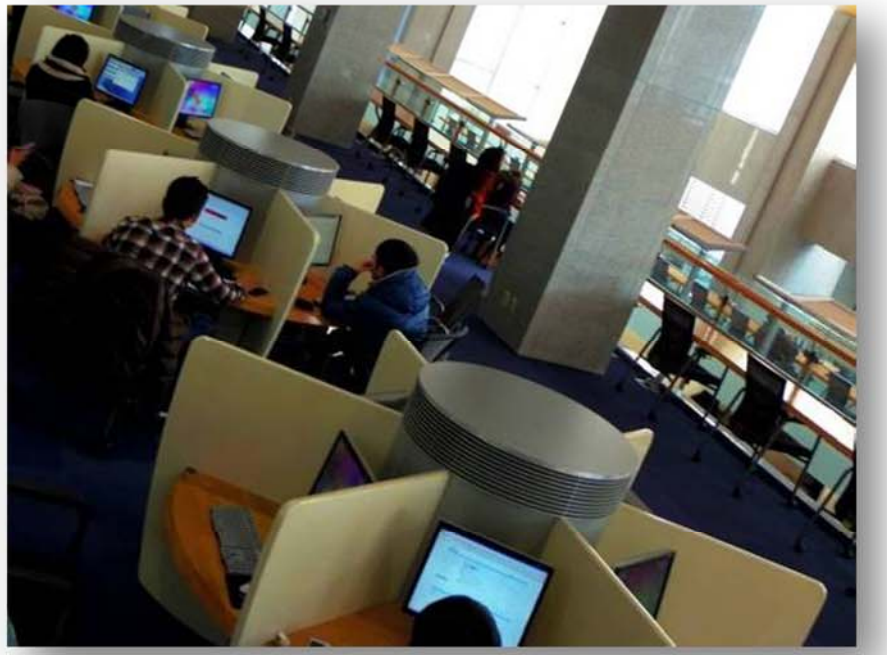
Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

延世・三星学術情報センター

RISSHO University

【座席予約キオスク端末と各コーナー】

座席は入口のキオスク端末で予約してから利用する。
課題遂行のためのソフトウェアを搭載したPCやプリント・スキャニングを利用できる課題遂行コーナー、国内外の学術データベースを検索・利用できる学術情報検索コーナーなど。



Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

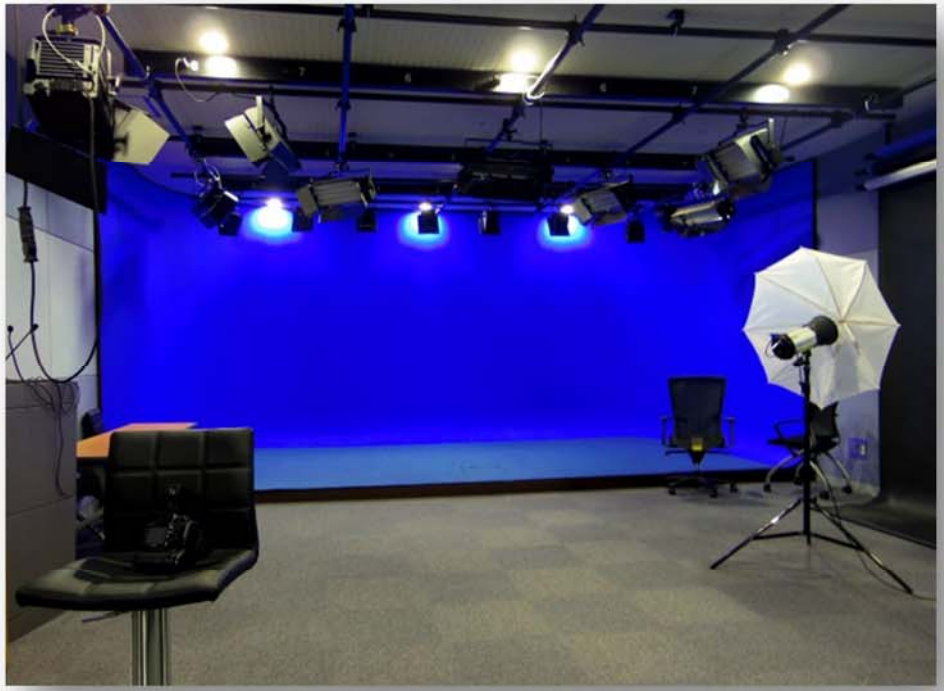
【Digital BookとMy eBookコーナー】

42インチの画面上で実物の図書のようにページをめくりながら閲覧することのできるDigital Bookの他、Digital Newspaper、あえてキーボードを置かずにタッチスクリーンのみの、学生証で認証を行うeBook専用閲覧端末などが完備されている。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

【メディア制作室と鑑賞室】

ブルースクリーンに照明やHDカメラが設置されたスタジオとメディア鑑賞のための5.1チャンネルドルビーサラウンドシステムを備えた40席規模の小劇場が完備されている。



Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

【主題別専門司書】

専門分野の修士以上の学位を持ち、採用後、4年以内に図書館情報学の修士を取得させている。
16の専門分野の学位を持つ12名の専門司書がいる。

・該当分野の図書及び電子資料の選書・提供
・学科との窓口担当
・専攻分野にあったデータベース利用教育の実施
・研究支援として、調査及び資料収集サービスの提供

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

私立梨花女子大学図書館

RISSHO University

1868年に韓国で最初に設立された女子大学

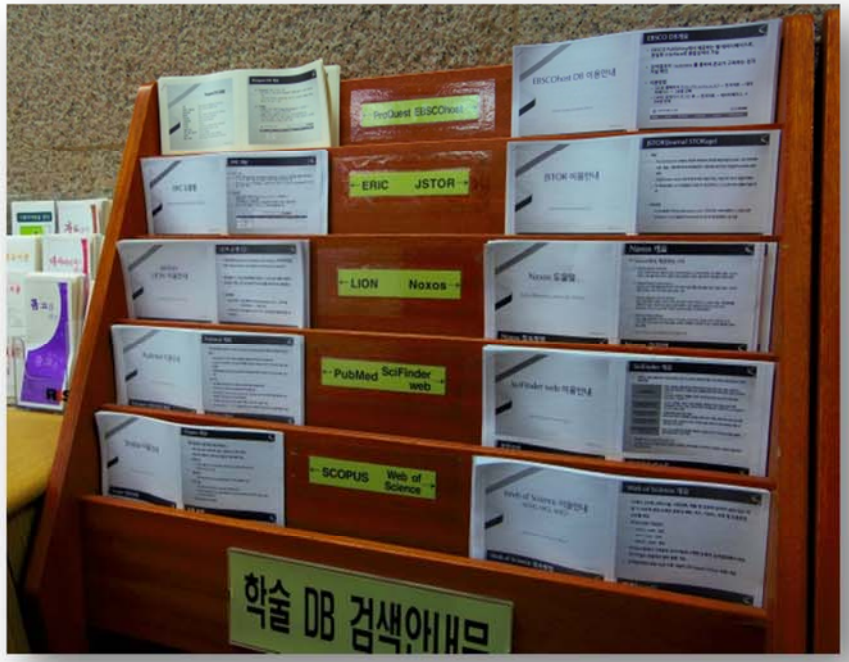
学部 大学院	単科大学12分野 一般・専門・特殊大学院15分野
学生数	学部／大学院合わせて 約20,000人
教職員数	常勤教授 890人、職員 369人
開館時間	平日 9:00～21:00 土曜日 9:00～15:00
蔵書数	図書 約160万冊 雑誌（紙） 約9,000タイトル 雑誌（電子） 約3,700タイトル

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

RISSHO University

【情報検索コーナーとDB利用案内】

情報検索コーナーには、国立国会図書館所蔵資料利用のための専用端末が設置され、専門スタッフが配置されている。EBSCOhostやJSTORなどのデータベースの利用案内を作成し、パンフレットスタンドにて配布している。



Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

私立梨花女子大学図書館

RISSHO University

【ECC Reading Rooms】

全面ガラス張りの複合施設ECC（Ewha Campus Complex）内に位置する。入館の際にキオスク端末から座席予約を行う、閲覧席のみの学習スペース（1,000席）となっており、資料は置いていない。試験期間は24時間利用可能。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

台湾

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

台湾の電子化事情

【電子出版産業に関する5カ年計画】

- 国際協力の強化
- 中国語電子出版市場の拡大
- 品質の高い読書のできる社会の促進

⇒人口が約2,300万人のため、出版マーケットとしては規模が小さい。

⇒翻訳ものを電子出版化する権利は、オリジナル版を出版した国外の出版社にあることから、台湾の電子化市場で流通するコンテンツは非常に限られている。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

國立高雄第一科技大學図書館

RISSHO University

1995年に設立された台湾の国立大学

学部 大学院	5学院（学部）、15学系（学科） 29研究所（研究科）
学生数	学部／大学院合わせて 約7,600人
開館時間	平日 8:30～22:00 土曜日 9:00～22:00 日曜日 9:00～17:00
蔵書数	図書 約29万冊 電子資料 約30万点

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

RISSHO University

【第e書房】

アメリカや香港、台湾の大学図書館を参考に、2012年に開設されたラーニング・コモンズ。学習形態・環境によってブースが区切られ、複数人でディスカッションできるソファ席や掘りごたつ式の和室、プレゼンテーションルームなどがある。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

【電子化への取り組み】

・1995年の設立当初より電子化への構想があった。
　現在は、冊子体よりも電子資料の方が多い。
・PCは図書館と第e書房合わせて65台設置。
・第e書房ではiPad、ノートPCを貸出している。
・電子資料・データベースの講習会を実施している。
・講習会の参加回数や本の貸出冊数は記録され、
　就職活動に活用可能なe-ポートフォリオとして利用される。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

特徴（まとめ）

◆ 電子化への取り組み
・どのような資料を対象とするかが重要。
・保存：利用＝7：3で保存重視であるが、永続的保存については今後の課題と考えている。（Dibrary）
・メタデータは、図書館保存用は画質優先、利用者サービス用は伝送速度を優先している。（国立ソウル大学）

⇒電子化は一般的、その後の利用者教育に力を入れている。
⇒司書の「あらゆる資料の電子化は、大学・教職員・学生・図書館にとって無駄なこと」「印刷物が持つ歴史的価値も重要であり、全てが電子化されるべきものでもない」という言葉が印象的。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

特徴（まとめ）

◆ 施設・設備

・個人学習席（室）とその座席予約システムが設置されている大学図書館が大半であった。

・マルチメディアコンテンツの制作・編集・閲覧のための施設が完備されている大学図書館が大半であった。

・アクティブラーニングについては、グループ閲覧室の設置程度に留まっている。

⇒韓国の名門校や医学部の学生ということもあり、日本の学生と学習形態の違いがあることがわかった。

⇒司書の「建物・施設ではなく、コンテンツの充実を重視」という言葉がとても印象的。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

特徴（まとめ）

RISSHO University

◆ 人的支援
・主題別専門司書が主題に特化した学習支援を行っている。

⇒学習・利用方法は学生に一任していることから、
「どのようにすれば来館し利用してもらえるか」の工夫よりも、
利用後の「高度な専門知識を要する学習支援」に注力している。
⇒高度な専門知識を持った主題別司書の必要性が感じられた。

⇒では、日本の場合は？自館では？
・各大学図書館に見合ったサービスを考えること。
・授業・教員との連携やコンテンツ制作なども視野に入れる。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved

ご清聴ありがとうございました

◆私立大学図書館協会国際図書館協力委員会「2012年度　海外集合研修報告」
http://www.jaspul.org/ind/committee/kokusai/shugo_report2012.pdf
報告書はこちらのページからご覧いただけます。

Copyright©2009 Rissho University. All Rights Reserved